

5月12日(火曜日)「本当の母親」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記3・16－28

「そこで王は……言った。『生きている子どもを初めの女に与えなさい。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親なのだ。』イスラエル人はみな、王がくださったさばきを聞いて、王を恐れた。……」(27、28節)

5月の第2日曜日は、「母の日」です。社会の一般行事ですが、この起源は米国の一教会の「昇天記念会」でした(「学びのために」参照)。

聖書の箇所は少し逆戻りします。同じ列王記第1の中でのソロモン王が、2人の母親の言い合いをみごとにさばいた話です。自分の子どもを寝ている間に窒息死させた女が、同居していたもう1人の母親の子どもと入れ替え、責任逃れをしようとしてバレてしまったのでした。なんという母親だったことでしょう。

母と子は、他のどんな関係とも比べることのできない密なものなのに、今日も悲劇が起こります。しかし、母親の役割は変わりません。「麗しさはいつわり、美しさはむなしい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。」(箴言31・30)「子を育て、世界を育てる強い母」(筆者が中学生の

頃の「母の日」の標語)を贈ります。

～祈り～

主よ。母親たちを守り、祝福してください。その役割は大きいからです。

あなたの知恵とご愛をいただいで子育てができますように。

【学びのために】

「母の日」について、:「母の日」は、1908 年米国ヴァージニア州(一説にはマサチューセッツ州)のある教会で、クララ・ジャービス婦人の追悼会が、お嬢さんたちによって開かれたことから始まったといわれます。

1914 年には米国会議で決議され、5 月第 2 日曜日と定められ、世界に広まっていきました。7 月 14 日参照。